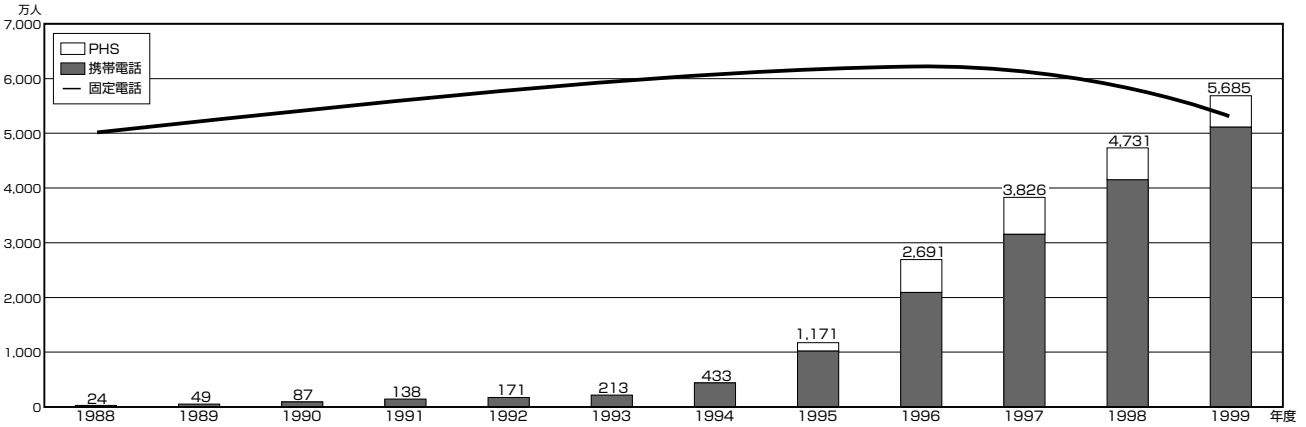
第1章 通信ネットワーク

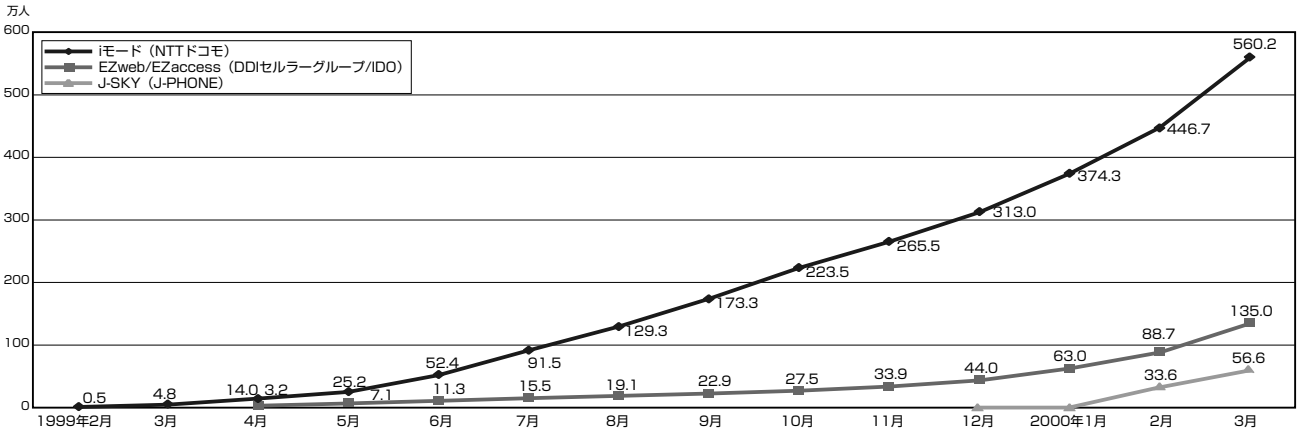
移動体通信 5685万加入で固定電話加入数と逆転

資料4-1-1 移動電気通信事業加入数の推移



注）加入電話1999年度末の数値は筆者が予想　　出所 郵政省資料、NTT資料を元に作成

資料4-1-2 携帯電話インターネットサービス契約者数の推移



注）J-SKYサービスの開始は1999年12月だが、12月、1月の数値は非公開　　出所 各社資料を元に編集部で作成

解説

携帯電話、ノートパソコン、PDAなどのモバイル機器を駆使した新たなビジネス環境、SOMO（Small Office Mobile Office）時代到来を象徴するかのように、郵政省・NTTの発表（資料4-1-1）などによれば、移動体通信（携帯電話・PHS）の加入者数の増加と固定電話の加入者数の減少傾向が一層進み、2000年3月には加入者数5300万人のポイントでクロスするに至った。PHSについては、PIAFS通信で実現される64kbpsの高速通信性が時代にマッチし、個人向けはもとより法人ユーザーにも根強い支持を得ている。

これら移動通信市場の急成長の牽引材料は、従来の音声通信中心からモバイルインターネットにシフトしている。

独自のiモード通信方式と若者層に高い人気を集める豊富なコンテンツで市場をリードするNTTドコモは、サービス開始1年目にあたる2000年3月にiモードで560万加入者を獲得し、2000年12月には1000万加入に達する見込みである（資料4-1-2）。ニフティなどインターネット接続プロバイダーが10年以上の年月を経て達成した加入者数をわずか1年で獲得し、“My First Internet”をモバイルで経験するユーザーが急増していることを象徴しているといえよう。

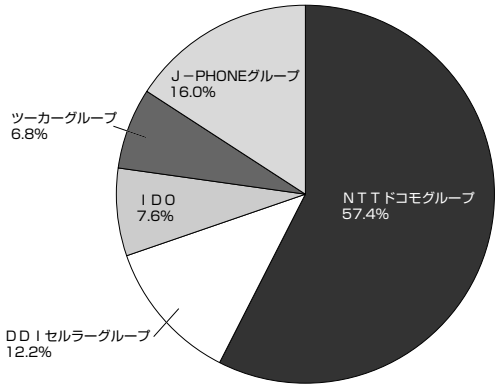
また、欧米キャリアも導入しているWAP方式をベースにEZweb/EZaccessサービスでモバイルインターネットをDDIセルラー/IDOグループも確実にユーザーを伸ばしており、今後、cdmaOne方式での伝送速度の高速化が実現されれば、さらに加入者数の伸びが期待される。

一方、携帯電話のキャリア別市場シェア（資料4-1-3）は、NTTドコモグループが57％以上を占め、次いでDDIセルラーグ

インターネット白書／ ©1996-2012 Impress R&D

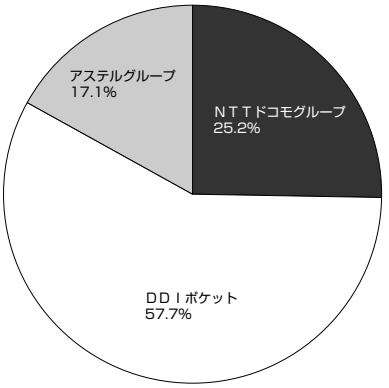
移動体通信　携帯電話は57.4％がNTTドコモ

資料4-1-3　携帯電話キャリア別市場シェア（2000年3月末）



出所　郵政省資料を元に作成

資料4-1-4　PHSキャリア別市場シェア（2000年3月末）



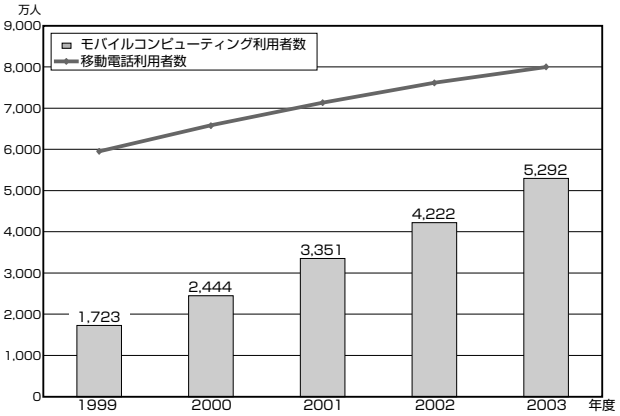
出所　郵政省資料を元に作成

資料4-1-5　PHS定額インターネット接続サービス一覧

PHS事業者	北海道総合通信網HOTnet（アステル北海道）	アステル四国	アステル北陸
プロバイダー事業者	HOTCN	ネットウェーブ四国	北電情報システムサービス
サービス名	HOTCN定額ダイヤルアップ接続サービス	ねっとホーダイ	ねっとホーダイ
接続料金（月額）	4,800円（回線使用料）	4,800円から	4,980円から
（基本使用料）	―	700円（新規契約の場合に発生）	980円（データ通信専用プラン）
（定額通信料）	―	3,000円	2,500円
（プロバイダー料金）	―	1,800円	1,500円
接続可能時間	24時間	午前1時～午後10時の21時間（それ以外は従量制）	24時間
地域	札幌市を中心とした道央圏、函館市、旭川市など	徳島県、高知県、愛媛県、香川県	石川県、富山県、福井県
開始時期	2000年3月1日	2000年3月15日	2000年5月1日
URL	http://www.hotnet.co.jp	http://www.netwave.or.jp/~astel/	http://www.fitweb.or.jp/astel/

注）2000年4月現在　　出所　各社資料を元に編集部で作成

資料4-1-6　移動電話市場におけるモバイルコンピューティング利用者予測



出所　MCPC（モバイルコンピューティング推進コンソーシアム）資料を元に作成

解　説

ループが続いているが、今後、移動通信事業者同士の合従連衡が進むにつれ、市場シェア構成も大きく変化してくるものと思われる。PHS市場では、営業力に勝るDDIポケットが57％以上のシェアを得ている（資料4-1-4）。

今後、PHSの分野では、モバイルインターネットに軸足を置いた定額インターネット接続サービスが携帯電話系に対抗するうえで重要な営業戦略になる。アステルグループでは、地域限定ではあるが、ISDN定額制やADSL等の料金体系を意識し、北海道と北陸地域の一部で5000円以下の定額IPサービスを開始しており（資料4-1-5）、今後の全国的な拡大が期待される。

モバイルコンピューティングのユーザー増加傾向（資料4-1-6）は、今後も世界規模で進み、中でも日本が先導的な役割を示していくであろう。とりわけ、2001年からNTTドコモがサービスを開始する第三世代のW-CDMA方式による高速広帯域セルラーサービスが普及すれば、より快適なモバイルインターネットが可能になり、ユーザーの固定回線離れが加速されるであろう。

これらモバイルインターネットのコンテンツは、未だエンターテインメント分野のコンテンツが中心であるが、今後、モバイルバンキング、モバイルトレーディングなど日常生活に不可欠なコンテンツがより充実することで、真のモバイルツールとして広く定着するであろう。

（高川雄一郎　早稲田大学国際情報通信大学院）

インターネット白書／ ©1996-2012 Impress R&D

Internet White Paper ARCHIVES
インターネット白書
ARCHIVES
1996,1997,1998,1999,2000

［インターネット白書ARCHIVES］ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

http://IWParchives.jp/

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先 | 株式会社インプレスR&D | ✉ iwp-info@impress.co.jp

©1996-2012 Impress R&D, All rights reserved.